

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 食道アカラシアおよび類縁疾患の好酸球の細胞崩壊からみた新規病態分類

研究の目的

食道アカラシアは食物の通過障害が生じる原因不明の疾患であり、さまざまな原因や病態が複雑に関連していると推測されています。

食道アカラシアや、びまん性食道攣縮およびジャックハンマー食道といったアカラシア類縁疾患に対して、昭和大学の井上らにより開発された内視鏡下筋層切開術（per-oral endoscopic myotomy；POEM）による従来よりも低侵襲な治療が行われ、良好な成績を得るようになりました。POEMの手技を用いることで、これまで手術標本から採取するしか方法がなかった筋組織が低侵襲で正確に得られるようになり、さまざまな報告がされるようになっています。ジャックハンマー食道の中に食道筋層のみに好酸球浸潤を認める症例が存在することが報告されこのような症例の中でステロイド内服が有効だった症例について報告されており、好酸球浸潤の有無により治療効果や臨床経過が異なる可能性があります。

好酸球の細胞崩壊（extracellular trap cell death；ETosis）はアレルゲンなどの刺激により活性化した好酸球が網状DNAを放出する反応です。食道筋層に好酸球浸潤を認める症例とETosisとの関連についての報告は有りません。本研究を行うことでETosisの関与が明らかとなれば、現在の標準治療であるPOEMよりも低侵襲なステロイド内服により症状改善が得られる症例が予測できる可能性があります。

研究実施期間： 実施許可日～2027年3月31日

対象となる方： 2014年1月～2026年12月までに当科でPOEMを受けた患者さん

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、年齢、性別、基礎疾患、治療の既往、内視鏡診断結果、食道内圧検査結果、食道造影結果、POEMの結果、POEM後の経過、治療後の逆流性食道炎の発生割合等について、標記研究課題実施のために利用します。

POEMの際に筋層生検を行い、得られた検体をETosisの研究を多数行っている秋田大学（研究責任者：植木重治）へ郵送し、免疫染色を行うことでETosisの関与を調べます。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。また、この情報は研究者以外に漏洩することが無いように細心の注意を払います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	附属病院消化器内科、血液内科、免疫内科 立田哲也 連絡先電話番号 0172-33-5111
-------	--